分　科　会	中（歴史②）	郡　市　名	岡　　崎
提　案　者	岡崎市立六ツ美北中学校		新　井　健　祐

社会に参画していこうとする子どもの育成をめざし、仲間とかかわりながら問題の解決を図る社会科の授業
～１年生歴史「六ツ美北にも一揆があった⁉
徳川家康と家臣が対立した三河一向一揆のなぞに迫ろう」の実践を通して～

１　はじめに

「歴史って何の役に立つんですか？」という問題意識を抱え、歴史を他人事に見る生徒が多い。さまざまな歴史的事象はどこか遠い国でおこり、自分たちとはまったく関係のないものとなっているのである。これでは現代人が先人に学び、よりよい社会の形成に活かすといった歴史を学習する意義は失われていくだろう。さらに言えば社会的事象に自らかかわろうとする公民的資質に欠けた生徒が増える可能性もあるだろう。そこで、以下に示した本研究テーマ「社会に参画していこうとする子どもの育成をめざし、仲間とかかわりながら問題の解決を図る社会科の授業」に基づいて本学級の生徒の歴史に対する意識を変容させたいと考えるのである。

「社会に参画していこうとする子ども」

自ら積極的に社会的事象をとらえ、自分の考えや確かな価値観をもち、仲間と共有し、責任ある行動をとることができる資質や能力をもった子どもである。そのような子どもを育成するために、以下に示す「仲間とかかわりながら」や「問題の解決を図る」が必要になってくるのである。

「仲間とかかわりながら」 ↙	↘ ***「問題の解決を図る」***
学びを通してかかわるすべての人々や学級の子どもを仲間とし、社会的事象に対する情報を聞き取ったり、話し合いを通して互いの考えを理解したりすることである。	社会的事象にふれたときに生じる子どもの疑問を追究することで自分の考えをもち、話し合いを通してお互いの価値観を理解しながら合意を図ることである。

以上に基づいて、三河一向一揆を題材とする研究実践を行った。戦国時代、六ツ美北の学区周辺では、「不輸不入権」の特権をもつ寺が一大勢力を築いていた。今川の人質から岡崎へ帰ってきた徳川家康は、一刻も早く戦国大名としてこの地における勢力基盤を固めようとしていた。その上で、戦国大名と寺による土地や農民の二重支配の構図から脱却を図り、寺の特権を認めなかった。そうした家康のやり方に反発する寺と寺の特権の恩恵を受けていた家康の家臣が一揆をおこしたのが始まりとされる。生徒には**主君と家臣が対立した地域教材の意外性に触れ、その苦悩や葛藤を考える中で、当時の人々の思いや生き方に迫ってほしい。**そうすることで生徒は、歴史の中の人々に共感し、歴史を自分事としてとらえ、歴史に対する意識を変容させることができるだろう。本研究ではそのきっかけをつくるために、以下のような構想を設定した。

２　研究の概要

（１）研究の仮説と手立て

≪研究の仮説と手立て≫

仮説Ⅰ　歴史的事象に疑問を抱いたり、意識が連続したりする課題を工夫して単元を構成すれば、自ら積極的に歴史的事象をとらえようとするだろう。　**←自ら積極的に社会的事象をとらえる生徒**

手だて①　矛盾を生み出す地域素材の教材化　☞徳川家康と家臣が対立したことを語る石碑をとりあげ、中心課題とする。
手だて②　意識が連続する課題の設定　☞予想される生徒の疑問や感想、授業中のつぶやきから学習課題を設定する。

仮説Ⅱ　歴史的事象に対する課題を多様な方法によって追究すれば、根拠と自信を兼ね備えた自分の考えをもつことができるだろう。　**←自分の考えや確かな価値観をもった生徒**

手だて③　追究活動を助ける資料の工夫　☞家康の伝記やまんがを基にした自作資料や「家康館」を利用する。
手だて④　追究活動を助ける形態の工夫　☞本校研究の少人数グループ学習「つかむ協同学習」を利用する。※１

仮説Ⅲ　歴史的事象に対する自分の考えや価値観を仲間とかかわらせることができれば、歴史に関する自分なりの見識を広めることができるだろう。　**←仲間と共有できる生徒**

手だて⑤　意見をかかわらせる場の工夫　☞家康や家臣の思いを基に、家臣の立場から戦う理由を話し合わせる。
手だて⑥　合意形成を助ける形態の工夫　☞本校研究の少人数グループ学習「深める協同学習」を利用する。※２

仮説Ⅳ　歴史的事象をふりかえり、歴史解釈に迫れば、自分なりの見方で歴史をとらえ、身のまわりの社会的事象に関心をもつことができるだろう。　**←責任ある行動をとることができる生徒**

手だて⑦　歴史的事象を意味付ける場の設定　☞家臣にとって、三河一向一揆はどのような意味があったかふりかえらせる。

※１「つかむ協同」教え合い、基礎基本の定着を図る　※２「深める協同」既習事項を利用してかかわり合い、学習内容を深める

（2）単元計画

段階	学習課題と学習内容、生徒の思い	手だて
出会い	**第１時　上和田町公民館前の石碑は一体何なのだろうか** ・学区にある石碑から三河一向一揆の存在や家康と家臣が対立したことを知る。 なぜ家康と家臣が対立したのだろう	・生徒が石碑に刻まれた漢文を読み解くために、自作ＤＶＤを視聴させる。 手だて①
対象を見つめる	**第２～５時　家康と家臣は、なぜ対立したのだろうか** ☆家康に不満があったため　☆家康の地位をうばうため　☆一向宗門徒のため 三河一向一揆について調べよう ・家康の生涯の中での一揆について、その概要を知る。 ・一揆に関する疑問を考え、調べることで具体的に一揆を知る。 一揆の起こり（不入権とは？）　一揆の戦い（どのような戦いか？）　一揆の結末（部下を許した理由は？） ・家臣が一揆に参加したのは、寺の不入権を家康が無視し、米を奪ったためだと気付く。 蜂屋や土屋はどのような思いで戦っていたのだろう	・生徒の追究意欲を喚起するために、学習課題の予想をさせる。 ・生徒が三河一向一揆の概要をつかむために、家康館の展示パネルや館内職員への聞き取りをさせる。 ・生徒が考えた一揆に関する疑問を解決するために、グループに分かれて追究課題を決め、自作資料を基に追究し、情報を共有させる。 手立て②　手だて③　手だて④
仲間とかかわりながら問題の解決を図る	**第６時　家康と家臣はどのような思いで戦っていたのだろうか** 家康 ・「不入権」に力を奪われてしまう ・三河を早く統一しなければまずい 家臣 ・「不入権」がなければ生活に困る ・私たちの負担減を考えてほしい ・家康や家臣がさまざまな思いをもって戦っていたことに気付く。 **第７時　あなたが家臣なら、家康側と一揆側のどちらで戦うだろうか** 家康側 ・平和な世を目指そうとしたから ・武田など，周りの国が危険だから ・松平三蔵に恩賞をくれたから 一揆側 ・「不入権」を守りたいから ・一向宗が大切だから ・勝って寺内町を守りたいから ・戦国の世の人々の生活を第一に考えた価値観について気付く	・生徒が学習課題を考えるために、まんが資料の戦いの場面に吹き出しを付け、家康や家臣の思いを考えさせる。 ・生徒が考えを発表することで、家康や家臣の思いに気付かせる。　手立て② ・生徒が家康や家臣の思いに迫るために、家臣という一つの立場にしぼり、今までの追究を踏まえて意見を考えさせる。 ・生徒が考えた意見をかかわらせて家康や家臣の思いに迫るため、討論をさせる。 ・生徒が家康と家臣の思いをつかむため、一番に考えていたことをグループで話し合わせる。 手立て②　手だて⑤　手だて⑥
まとめ	**第８時　家臣にとって、三河一向一揆はどのような意味があったのだろうか** 家康側についた家臣 ・戦国大名になることができた戦い 一揆側についた家臣 ・権利をうったえた戦い	・生徒が三河一向一揆を自分の視点でとらえるために、意味づけをさせる。 手立て②　手だて⑦

（3）研究の実際

第１時　上和田町公民館前にある石碑は一体何なのだろうか

単元の始めに、学区にある石碑の写真資料１を生徒に提示した。「これは何でしょう？」の問いに生徒は、「誰かのお墓」、「何かの記念碑」と答えた。石碑が学区にあることを告げると、「**えっ？**どこですか？」とまったく知らない様子であり、「**何だろう？**」と興味を示した様子でもあった。そこで、「上和田公民館前の石碑は一体何なのだろうか」と学習課題を掲げ、石碑に関する自作ＤＶＤと文章資料を提示し、なぞの石碑について迫ることとした。

生徒は石碑に関する自作ＤＶＤと文章資料から資料２のように、「**徳川家康と土屋長吉という家臣が対立したこと**」、「**土屋長吉は徳川家康をかばって亡くなったこと**」という主君と家臣が対立した三河一向一揆の矛盾点に気付くことができた。

資料３**生徒Ａ**、**生徒Ｂ**の感想を見ても、そこに意識が集中していることが分かる。生徒のその思考に沿い、「**家康と家臣は、なぜ対立したのだろうか**」を単元の中心課題に設定し、次時につなげることとした。

資料１　上和田公民館前の石碑

資料２　ＤＶＤと文章資料からの気付き

- 上和田公民館前にあるということ。
- 「一揆」という文字が刻まれていること。
- **徳川家康と土屋長吉という家臣が対立したこと。**
- **土屋長吉は徳川家康をかばって亡くなったこと。**
- 一揆は僧と門徒による一向一揆であったこと。
- 地元上和田の城も戦場だったこと。

＜資料３上和田町公民館前にある石碑は一体何なのだろうか　　第１時の生徒感想＞

生徒Ａ：土屋さんは**家康の家来だけど、門徒でもあったから対立したのでは？**どっちにもしたがわないといけなかったから、結局最後は**家来なので家康のほうについて死んでいったのでは？**

生徒Ｂ：今回の授業で分からないことがたくさんありました。例えば長吉さんは**家康さんの部下なのに、なんでVSになるのか？なぜ対立し、かばったのか**など、たくさんの疑問がありました。次の授業でこれらのなぞを一つ一つ解いていき、真実をつきとめていきたいです。

第２～５時　家康と家臣は、なぜ対立したのだろうか

第２時ではまず、生徒の追究意欲が続くように、中心課題に対して予想資料４を立てさせた。

次にこれらの予想の真偽を確かめる方法を問うと、「図書室の本」や「インターネットの資料」、「地域の方に聞く」、「地域の施設の見学」が生徒からあがった。そこで岡崎市にある「家康館」を紹介し、見学することにした。生徒は「家康館」の展示パネルや映像資料を読み取ったり、館内職員の倉田さんから聞き取ったりしながら**資料５**のような内容を学ぶことができた。

資料４　学習課題に対する生徒の予想
- 一向宗の信者だったからではないか？
- 家康の地位をうばいたかったのではないか？
- 給料が安いなど、家康に不満があったのではないか？
- 家康を倒し、強さを示したかったのではないか？

生徒はそれぞれ「家康館」で、大量の情報をノートにメモすることができていた。しかし、情報が大量すぎて時系列やカテゴリー別にまとめることができず、理解に苦しむ生徒も見られた。そこで次時では、生徒それぞれの情報を全体の場で発表し合い、情報を整理し、「家康館」で学んだことを共有することにした。

資料６生徒Ａ、Ｂの感想を見ると、「家康館」が学ぶ動機付けの場となっていることがうかがえる。

資料５　「家康館」で学んだこと
- 家康が織田や今川の人質生活を強いられたこと。
- 岡崎が織田と今川の支配の狭間にあったこと。
- **家康が三河三ヶ寺の不入権を侵害し兵糧米を奪ったこと。**
- 一揆には僧や家臣の蜂屋、**農民が加わったこと。**
- 家康が一揆を弾圧し、**家臣を許して勢力を強めたこと。**

※「一揆は税を取ろうとした家康に対する庶民の不満」。
※倉田さんからの聞き取り

＜資料６家康館を見学して　　第２時の生徒感想＞

生徒Ａ：家康は小さいころに貧乏で苦労していたことを学ぶことができました。**家康館という特別な場所に行き、みんなで一緒に調べることができて楽しかったです。**

生徒Ｂ：予想をもとに家康館に 行くことができました。倉田さんの説明はとても分かりやすかったです。また、三河一向一揆の起こりや内容をメモすることができました。家康側と一揆側の関係図があって戦いの様子が分かりました。**また行って勉強したいです!!**

第３時では、一部の生徒しか見ることや聞くことのできなかった情報を伝え合い、共有することができた。その中で生徒は、専門的な用語の「三河三ヶ寺とは？」や一揆の結末のできごと「なぜ家臣は許されたのか？」など、一揆に関する新たな疑問をつぶやきはじめた。

資料７生徒Ａ、Ｂも感想で疑問をあげており、一揆のことをもっと深く知りたいという思いを感じ取ることができた。

＜資料７家康館での情報の共有　　第３時の生徒感想＞

生徒Ａ：不入権とは何なのかわからなかった。家康は、まだ小さい頃から母を亡くしたり、人質にされたりして、かわいそうだなぁと思った。

生徒Ｂ：不入権って何ですか？何で土屋さんは対立したのにかばったんですか？まだまだなぞは残っています。**なぜ農民も戦ったのか？**今度はパソコンなどで深く調べていきたいです。

以上の生徒の様子を踏まえ、生徒のつぶやきやノートの感想からあがった新たな疑問を集約し、追究することで一揆をさらに詳しくとらえていくこととした。集約された疑問は**資料８**のとおりである。そして集約された疑問八つをグループで分担して解決していくこととした。

資料８　一揆に関する新しい疑問

起こりに関する疑問
- ６班　家康が一揆で戦う理由は何か？
- ２班　三河三ヶ寺とはどこか？
- ４班　不入権とは何か？
- ８班　**なぜ農民も戦ったのか？**

戦いに関する疑問
- ７班　土屋長吉はなぜ家康をかばったのか？
- ３班　一揆で活躍した家臣はどうなったのか？

結末に関する疑問
- １班　一揆の終わり方はどうなったのか？
- ５班　なぜ家康は部下を許したのか？

資料９追究時の８班の様子

第４時では、一揆に関する情報の乏しいインターネットではなく、一揆のまんが『一揆いろいろ』高野澄（さ・え・ら書房）や『岡崎市史　中世』新行紀一、一揆に関する文献『一向一揆の基礎構造』新行紀一（吉川弘文館）、『参州一向宗乱記』中嶋次太郎（国書刊行会）などを合作した自作資料を提示することで、グループの追究活動を支援した。

生徒Ａ、Ｂの８班は**生徒Ｂ**のかねてからの疑問であった「なぜ農民も戦ったのか？」を取り上げ、「一揆に農民が参加？～その真実は

資料１０まんが『一揆いろいろ』

～」と課題を設定し、自作資料をグループのリーダーを中心に分担して読み上げていった。その中で資料１０「**われわれの寺は不輸不入権という権利があるんだ**（寺）」、「**あの領地からは年貢がとれない**（大名）」、資料１１「**この寺院の領地に逃げこめば安全なんだ**（農民）」、「**ウーム手が出せない…**（大名）」というイラストを発見し、**寺には不輸不入権という特権が約束されており、農民が米を寺に納めるかわりに土地を寺に守ってもらっていた**という事実を知ることができた。

資料１１まんが『一揆いろいろ』

資料１２生徒Ａ、Ｂの感想を見ると、追究したことに対して、農民の立場から一揆を見ていることが分かるものの、一揆に対する見方が一面的であるという見方もできる。

次時では、資料８５、６班が追究した家康の立場や３、７班が追究した家臣の立場、１、２、４班が追究した一揆に関する専門用語などを全体の場で伝え合い、共有することで多角的に一揆を見ることとした。

＜資料１２　三河一向一揆に関する新たな疑問をグループで追究　　第４時の生徒感想＞

生徒Ａ：**グループのみんなとまんがの中から答えを探すことが面白かった。**農民が一揆に参加した理由がつくづく分かって**農民の気持ちになれた。**

生徒Ｂ：**グループで探したので分かりやすかった**です。家康は悪い人だと思いました。勝手にお米をもっていけば農民が不満を持つことは分かっていたのに、そのことも考えないなんて家康はどうかしていると思いました。**農民たちがつくったお米が横取りされてかわいそう。**

第５時では、八つのグループがそれぞれに追究した資料１３の情報を資料１４にまとめて発表し、一揆に関して新たに分かったことを共有することができ、今までよりさらに一揆に関して深く知ることができた。しかし、数名の生徒が「**でも、なんで家臣が対立したのか、まだはっきりしない**」と中心課題に対してつぶやく様子が見られた。そこで、「家康館」職員の倉田さんの一揆に関する説明に課題を解くキーワードがあったことを告げた。すると「え？どこだろう？」とノートを見返す生徒の姿を見ることができた。さらに別のまんが資料『まんが人物館　徳川家康』小和田哲男（小学館）にも課題を解くキーワードがあることを告げて資料１５を提示した。生徒はまんが資料を食い入るように見つめ、追究し始めた。８班の生徒は資料５の**「一揆は税を取ろうとした家康に対する庶民の不満」**という倉田さんの説明と、別のまんが資料「**ここまでの道中、農民たちもずいぶんわしに遠慮していたぞ**（家康）」、「**おそらく家臣のだれかでしょう。我々も田畑で働いてまして…**（家臣）」というイラストから**農民と家臣が同じ地位**であったことに気付いた。そして、**農民のような身分の家康の家臣は寺の不輸不入権の庇護のもと土地を守られ米をあずけていたが、家康がその特権を無視し米をうばった**という一揆の事実に辿り着くことができた。

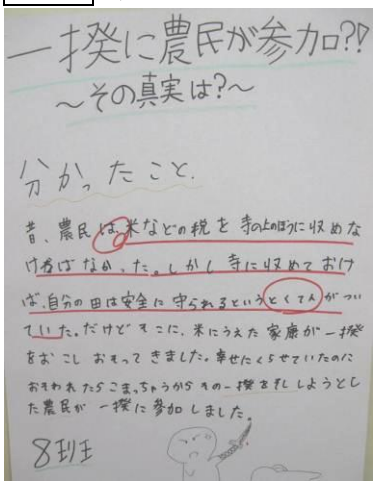
資料１３　**新しい疑問を追究して分かったこと**

起こりに関して分かったこと
６班　☞**まわりには武田氏や上杉氏、織田氏がおり、兵の米（兵糧米）が必要であった。**
２班　☞上宮寺、勝鬘寺、本證寺のこと。「不輸不入権」が認められていた。
４班　☞年貢の徴収なし、労働税なし、関係者以外入ることができない、犯罪を裁いてくれる
８班　☞寺にあずけた米を守るため。

戦いに関して分かったこと
７班　☞**家康が主君**であるから。
３班　☞寺の土地をもらえた。寺に対して残っていた借金を帳消ししてもらった。

結末に関して分かったこと
１班　☞講和を結ぶ、部下は戻れば許された、僧を弾圧した、講和は破られた。
５班　☞信仰心を捨てさせ、団結力をはかった。

資料１４発表ボード



資料１５まんが『まんが人物館　徳川家康』

資料１６生徒Ａ、Ｂの感想のように「武士まで田んぼで働いていたのはかわいそう」や「武士ががんばって

つくった米をうばう家康は悪い人」など、当時の人々の視点に立って意見を述べたのは、歴史の中に身を投じ、一揆に関わった人々に共感しているからだと考える。**生徒B**はさらに、「わたしが寺の近くに住む武士なら一揆に参加していたと思います!」と、一揆を家臣の立場から自分事としてとらえようとしている。そこで、一揆に関わった人々が何を思い、戦っていたかを考えさせることとした。

＜資料１６　新しい疑問を追究して情報を共有　　第５時の生徒感想＞

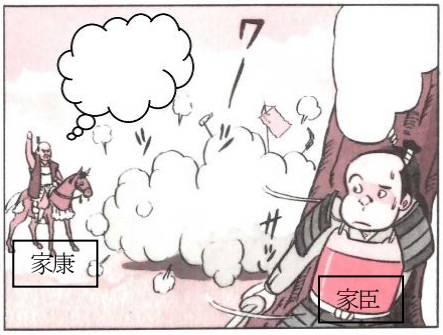
生徒A：武士まで田んぼとかで働いていたのはかわいそうだった。寺が米をたくさんもっていたのはいけないと思うけど、そこはしょうがないと思って許してあげたらいいのになと思った。

生徒B：また、みんなの発表は分かりやすく、疑問に思っていたことがなくなり、スッキリしました。**武士ががんばってつくった米なのに、それをうばう家康はやはり悪い人**だと思いました。**わたしが寺の近くに住む武士だったら、三河一向一揆に参加していたと思います!**武士もかわいそうだと思いました。

第６時　家康と家臣は、どのような思いで戦ったのだろうか

第６時では、意見を戦わせる前段階として、一揆に関わった人々が何を思い、戦っていたのかを考えさせることとした。そこで、実際にあったとされる家康と家臣の戦いの一幕を描いたまんが資料**資料１７**に吹き出しを付け、「家康と家臣は、どのような思いで戦ったのだろうか」を課題としてそれぞれの思いを考えさせた。

資料１７まんが資料の吹き出し



全体での発表**資料１８**を見ると、家康は**資料１３**の６班「**まわりには武田氏や上杉氏、織田氏がおり、兵の米（兵糧米）が必要であった**」を根拠にＣ１（**生徒B**）「**まわりの国と戦うのに米が必要**」やＣ３（**生徒A**）「**戦うかもしれないから米を集める**」、Ｃ５「**まわりを制圧するぞ!!**」と戦う理由を述べている。また、**資料１３**の７班「**家康が主君**であるから」を根拠とし、Ｃ２のように「自分を裏切って」と主君を裏切った行為を戦う理由にあげる生徒もいた。さらにＣ４「自分の大切な家臣たちは大丈夫か」のように、家康が家臣を重宝したという既成知識を根拠にする生徒もうかがえた。

	資料１８家康と家臣の思いの発表の主な意見
Ｃ１ **生徒B**	家康は、**まわりの国と戦うのに米が必要**なんだ。家臣は、元は家康の家臣だから戦いづらいなぁ。と迷っている。
Ｃ２	家康は、**自分を裏切って一向宗側についた家臣に負けてたまるか。**家臣は、寺につかえてきたのだから主君の家康様だけど、戦わなくてはいけない。
Ｃ３ **生徒A**	家康が**私の計画をジャマする奴はつぶしてしまえ。**蜂谷さんのほうはつぶされちゃうのかなぁ。家康の味方のがよかったのかなぁ。
Ｔ	なるほど。計画って何？
Ｃ３	**戦うかもしれないから米を集めるってことなのに、ジャマされていやだなぁ。**
Ｃ４	家康は、**自分の大切な家臣たちは大丈夫か。**家臣は戦いづらいから逃げちゃおう。
Ｃ５	家康が、一向宗をつぶして、**まわりを制圧するぞ!!**で、家臣は、裏切りが家康にばれたらどうしよう。

一方家臣は、**資料１３**の７班「**家康が主君**であるから」を根拠にＣ１（**生徒B**）「元は家康の家臣だから戦いづらい」やＣ３（**生徒A**）「つぶされちゃうのかなぁ。家康の味方のがよかったのかなぁ」、Ｃ４「逃げちゃおう」、Ｃ５「裏切りが家康にばれたらどうしよう」と戦う理由を述べている。また、**資料１３**の８班「寺にあずけた米を守るため」や**第５時**で明らかになった**農民のような身分の家康の家臣**を根拠にＣ２「寺につかえてきたのだから主君の家康様だけど、戦わなくてはいけない」と、強い決意をもって戦いにのぞんでいただろう家臣の姿を思い描く生徒もいた。

資料１９生徒A、Bの感想にあるように、**生徒A**は家康や家臣の思いに共感して「なるほど」と思ったのに対し、**生徒B**は「ふくざつすぎて少し頭がこんらん」していることが分かる。他の生徒を見てもこのように思い悩む生徒が出てきた。そこで、**生徒B**の困惑を解消すべく、家康や家臣の立場をしぼって思いを探り、さらに意見を戦わせることで意見の深まりをねらうこととした。

＜資料１９家康と家臣は、どのような思いで戦ったのだろうか　　第６時の生徒感想＞

生徒A：家康は計画があって勝気まんまんでめっちゃ強そうだけど、蜂谷さんは主君の家康を前に弱気になってて弱そうでした。いろいろな意見が聞けて**なるほどと思った**のがたくさんありました。とても面白かったです。

生徒B：家康と家臣のセリフを考えている時、**ふくざつすぎて少し頭がこんらん**しました。家康は何を考えていたのか、家臣は家康と戦って米を返してもらいたいし…迷います。

これらの思いと、今までの追究過程において家臣が対立したという矛盾に迫ったことを考慮し、「あなたが家臣なら家康側と一揆側のどちらで戦うだろうか」を提示し、その意見を考えさせた。なお、その際に意見の根拠の参考として三河三ケ寺の住職の聞き取り**資料２０**を提示した。

資料２０　三河三ケ寺からの聞き取り

本證寺　**今川は「不輸不入」を守ったが、家康は守らなかった。**

上宮寺　**当時、矢作川は水運で栄え寺を中心とした寺内町があった。だから「不輸不入」は自分たちを誇れる権利だった。**

勝鬘寺　武士も農民と同じように働いていた。辛かったろうに。

第７時　あなたが家臣なら家康側と一揆側のどちらで戦うだろうか

第７時では、生徒がそれぞれに選択した家康側と一揆側の立場に別れ、冒頭から討論を行った。

討論は、一揆側のＣ１「不輸不入権を侵害されたから一揆をおこすことは正当防衛」と、権利を侵害する家康のやり方を批判する意見に始まった。これは**資料１３**４班「年貢の徴収なし」といった不輸不入権の学びや**資料２０**本證寺からの聞き取り「不輸不入権を家康は守らなかった」が根拠となっている。

それに対して家康側はＣ２（**生徒Ａ**）「**まわりの国、人たちが攻めてきちゃうから、それに備えるためにしょうがない**」と三河を統一しようとする家康の行動がやむを得なかったことだと反論した。Ｃ２（**生徒Ａ**）は**資料７**や**資料１６**感想では、家康や家臣の双方に共感し、思いを揺さぶられていたものの、家康側を選択した。意見を固めたのは**資料１８**Ｃ１（**生徒Ｂ**）「**まわりの国と戦う**」、Ｃ５「**まわりを制圧するぞ!!**」などの意見から、家康の行動の意図に気付いたためと考える。さらにＣ６も**資料１８**Ｃ１（**生徒Ｂ**）「**まわりの国と戦う**」、Ｃ３（**生徒Ａ**）「**戦うかもしれないから米を集める**」を根拠に「**国を守るため**」と家康の行動の意味するところを基に反論し、Ｃ２の意見を強めている。

それを受けて一揆側のＣ７（**生徒Ｂ**）は「その辺の人たちは米を食べて生きていくのに必要な米がなくなったら、死んじゃう」と家康の行動で国を守ることができても個人の命を守ることはできなかったと反論した。さらにＣ７（**生徒Ｂ**）はＣ１の「正当防衛」を「戦う権利」としている。Ｃ７（**生徒Ｂ**）は**資料１９**感想で、家康か家臣かで思いを揺さぶられていたものの、家臣側を選択した。これは**第５時資料１６**感想に書いた家康に対する悪印象が強く残っているためだと考える。

	資料２１家臣の立場から一揆について考える
Ｃ１	私は一揆側で、不輸不入権を侵害されて、家康はせこい。正当防衛。
Ｃ２ **生徒Ａ**	その米をとってきたのは、**まわりの国、人たちが攻めてきちゃうから、それに備えるためだもんでしょうがない。** (略)
Ｃ４	お寺の人たちは、**自分たちの特権を侵害されただけで一揆を起こすのは自己中**だと思います。
Ｃ５	米を勝手に奪っていった家康のほうも自己中じゃないですか？
Ｃ６	**国を守るために、寺とかも米を借りているから、自己中ではない**と思う。
Ｃ７ **生徒Ｂ**	国を守るためでも、その辺の人たちは米を食べて生きていくのに必要な米がなくなったら、死んじゃうかもしれない。しかも不輸不入権を侵害されたし、戦う権利があるから、戦う。 (略)
Ｃ９	家康側で、寺は米とか結構持ってたじゃないですか？**それを少しでも分けてくれれば、家康側に力がついて、それでまわりのやつを倒したら、倒したところからも米が入るので倍になる**と思います。 (略)
C11	講和も裏切られたし、実際に資料の本證寺と上宮寺のコメントにあるように、不輸不入権は寺の誇れる権利だったのに、家康は守らなかった。主君だからと思って守っても、結局戦うためだけの人間だったら、一揆側として、戦うための道具じゃなくて、自分たちにも人権があって意思のある人間だということを認めてもらいたいと思います。
C12	今の時代は人権があるけど、当時は人権あったの？
Ｃ９	C11 の意見に反対で、結局、国を守れなかったらまわりの国に攻められてしまいます。 (略)
C13	ぼくは蜂谷さんのように隠れて戦いを見ていたほうが楽。家康のために働きたくないし、奴隷のように扱われるので、自由がないと思ったので、自分で土地を持ちたい。

Ｃ９はＣ７（**生徒Ｂ**）の「米がなくなったら、死んじゃう」に対して「少しでも分けてくれればいい」と家康のやり方を指摘して解決策を探っている。

さらにC11 やC13 は「人権」、「自由」という言葉でＣ７（**生徒Ｂ**）の意見を強めている。C11 は**資料２０**やＣ１、Ｃ７（**生徒Ｂ**）の考えを踏まえて意見を述べている。C13 は授業で学習した加賀の一向一揆を引き出して自分の土地をもちたいと述べている。討論全体をとおして今までの追究活動で得た情報を基に意見を述べることができる生徒が多かった。

討論は終始、家康の不輸不入権の侵害に対する是非をめぐって続いた。その是非を問い合う中で、さらに意見をしぼるために家臣は何を一番に考えて家康側と一揆側を選択するにいたったか、グループで考えることとした。

資料２２は８班の話し合いの様子である。話し合いの中でＣ２（**生徒Ａ**）は、討論でＣ６が主張した「国を守るため」を引き合いに、家康側は国全体の利益を考えて戦っていたのではないかと主張した。Ｃ３（**生徒Ｂ**）は、討論で自身が主張したように、家臣が「生きていこうとする」ために戦ったことを再度強調し、個人の利益を守ろうとする意見を述べる様子がうかがえた。

資料２３生徒Ａ、Ｂの感想にあるように、「**家康のことをよく知ることができた**」や「**家康側の意見を聞いたけど、やっぱり**」から、当時の状況をつかんだことが分かる。しかし**生徒Ｂ**のように、家康側、一揆側

	資料２２家康側と家臣側が一番に考えていたこと
Ｃ１	家康側、一揆側で一番に考えていたことって何？
Ｃ２ **生徒Ａ**	**家康側はやっぱりまわりの国が攻めてくるから自分の国を守るっていう考えじゃない？**
Ｃ３ **生徒Ｂ**	一揆側は米が奪われたら死んじゃうから生きていくために戦いに参加しようと考えていたんじゃないの？
Ｃ２ **生徒Ａ**	**家康側は早く三河を落ち着かせないといけないっていう危機感もあったんじゃない？**だから国のためと自己中じゃない？
Ｃ３ **生徒Ｂ**	自己中じゃないよ!!米がなくなったら死んじゃうもん。生きていこうとしていたんだよ!!

どちらの思いも理解できるために複雑になった気持ちや「**結局家臣が負けたこの一揆に、何の意味があったのかよく分からない**」とつぶやく生徒がいたため、一揆を自分なりに解釈する時間を最後に設けることとした。

＜資料２３あなたが家臣なら、家康側と一揆側のどちらで戦うだろうか　　第７時の生徒感想＞

生徒Ａ：今日は家康に米をあげて戦いをして、その戦いに勝ったらもっと米が入ってくるという意見をしっかり言うことができた。**家康のことをよく知ることができた!!**

生徒Ｂ：家康はまわりの国と戦うのに米が必要なのは分かるけど、家臣たちの米をうばったら自分の味方が少なくなることを考えなかったのかと思いました。**家康側の意見を聞いたけど、やっぱり**家臣としては不輸不入権を侵害されてこっちにも戦う権利があるぞということで戦ったと思います。でも**「平和」という考えは同じなので複雑だなぁ**と思いました。

第８時　家臣にとって、三河一向一揆とは、どのような意味があったのだろうか

第８時では、前時の生徒のつぶやきを基に「家臣にとって、三河一向一揆とは、どのような意味があったのだろうか」を学習課題として提示した。すると、単元の最初からノートを見返して一揆の意味を考える生徒の姿を見ることができた。

家康側は**資料２４**Ｃ１（**生徒Ａ**）「三河を統一するための戦い」、Ｃ２（**生徒Ｂ**）「国を守るために寺を含め一揆側を支配する」、Ｃ３「家康の力を示した」、Ｃ４「天下統一のためのステップアップ」としている。これは、**資料２１**討論や**資料２２**グループでの話し合いをとおして知ることができた家康の思いを基に家康側にとっての一揆の意味を結論付けることができている。

資料２４一揆の意味とは　主な意見

家康側	
・三河を統一するための戦い	Ｃ１**生徒Ａ**
・国を守るために寺を含め一揆側を支配する	Ｃ２**生徒Ｂ**
・家康の力を示した戦い	Ｃ３
・天下統一のためのステップアップ	Ｃ４
一揆側	
・自分たちの強さを証明したかった	Ｃ１**生徒Ａ**
・苦しい生活に耐えた不満をぶつけた	Ｃ２**生徒Ｂ**
・家康の動きをさぐる腹の探り合い	Ｃ５
・犠牲者の代わりに不満を伝えた	Ｃ６

一方、一揆側は**資料２４**Ｃ１（**生徒Ａ**）「自分たちの強さを証明したかった」、Ｃ２（**生徒Ｂ**）「苦しい生活に耐えた不満をぶつけた」、Ｃ５「家康の動きをさぐる腹の探り合い」、Ｃ６「犠牲者の代わりに不満を伝えた」としている。これは、**資料２１**の討論や**資料２２**のグループでの話し合いをとおして知ることができた家臣の思いを基に一揆側にとっての一揆の意味を結論付けることができている。

資料２５生徒Ａ、Ｂの感想にあるように、それぞれ家康側と一揆側の主張を汲んで自分自身の一揆論を形成している。**生徒Ａ**の「強いことを証明するためのもの」は一揆をとおして時代背景をつかんでいることがうかがえる。そして**生徒Ｂ**の「意地のはり合いだった」は一揆がお互いの主張や権利を一歩も引かずに戦った様子をつかんでいることが分かる。

＜資料２５三河一向一揆とは、どのような意味があったのだろうか　　第８時の生徒感想＞

生徒Ａ：家康側にとってはまわりの国がせめてくるから守るためにしかたのない戦い。一揆側にとっては自分たちも強いという意志を見せた戦い。つまり、**三河一向一揆とは自分のほうが強いことを証明するためのもの。**

生徒Ｂ：家康側にとっては、三河のためであり、一揆側にとっては不満をぶつけた戦い。**三河一向一揆とは意地のはり合いだったと思う。**

他にも生徒は**資料２６**のように一揆をとらえた。どの意見も自分の言葉で一揆を表現できており、自分なりに歴史を解釈できたことを褒め、単元を終えた。

資料２６一揆の意味とは　結論

・家康にとっては天下統一のため、家臣にとっては不輸不入権などの権利を守る未来をかけた戦い。
・家康、家臣のお互いの気持ちを知れたけど、傷つけあったので意味がなかったたたかい。
・どちらも勝って強さを示したり、国を平和にしたかった戦いであったと思いました。

３　仮説の検証

（１）**仮説Ⅰ**　歴史的事象に疑問を抱いたり、意識が連続したりする課題を工夫して単元を構成したことが、自ら積極的に歴史的事象をとらえようとすることにつながったか？

手立て①矛盾を生み出す地域素材の教材化

→**第１時**で石碑が学区にあることを伝えたときの「**えっ？**」や「**何だろう？**」という反応から、意外性のある身近な教材が生徒の好奇心をくすぐったことが考えられる。

また、**第１時**の**資料３生徒Ｂ**の感想からも「**なぜ家康と家臣が対立したのか分からない。そしてなぜ、かばったのか分からない**」と疑問を抱いており、それが「真実をつきとめていきたいです」という生徒の学習意欲を喚起することにつながっていることが考えられる。

手立て②意識が連続する課題の設定

→**第２～５時**までの追究活動を支えたのは、**第１時**の**資料３生徒Ｂ**の感想「**なぜ家康と家臣が対立したのか分からない。そしてなぜ、かばったのか分からない**」という生徒が抱える疑問を基に中心課題を設定

したためだと考えられる。その後**第６～８時**の思いに迫り、それを基に討論し、一揆の意味付けを**生徒Ａ、Ｂ**をはじめとする多くの生徒が意欲的に行ったのも、学習課題を生徒の感想やつぶやきから設定し、提示していったためだと考えられる。

（２）仮説Ⅱ　歴史的事象に対する課題を多様な方法によって追究したことが、根拠と自信を兼ね備えた自分の考えをもたせることにつながったか？

手立て③追究活動を助ける資料の工夫

→**第６時**の**資料１８**生徒Ｂ「**まわりの国と戦うのに米が必要**」や**生徒Ａ**「**戦うかもしれないから米を集める**」といった意見の根拠となっているのは、**第４、５時**で提示した自作資料から分かったこと**資料１３**だと考えられる。そして**資料１３**は、**第２時**の家康館での学びから出た疑問を追究したものであるので、**資料１８**生徒Ｂの意見の形成に家康館も一役買っていると考えられる。

手立て④追究活動を助ける形態の工夫

→**第５時**の**資料１６**生徒Ａ、Ｂの感想「**武士まで田んぼで働いていたのはかわいそう**」、「**武士ががんばってつくった米なのに、それをうばう家康は悪い人**」は、**第４、５時**で８班がテーマにして「つかむ協同」で学習した「一揆に農民が参加？～その真実は～」が反映されたものと考えられる。

（３）仮説Ⅲ　歴史的事象に対する自分の考えや価値観を仲間とかかわらせることが、歴史に関する自分なりの見識を広めることにながったか？

手立て⑤意見をかかわらせる場の工夫

→**第７時資料２１**の**生徒Ａ**「**まわりの国、人たちが攻めてきちゃうから、それに備えるためだもんでしょうがない**」はＣ１「不輸入権を侵害されて、家康はせこい。正当防衛。」への反論であり、「不輸不入権の侵害」に対して「しょうがない」と時代の状況をよく考えて語っていることが考えられる。また、**資料２１**の**生徒Ｂ**「その辺の人たちは米を食べて生きていくのに必要な米がなくなったら、死んじゃう」はＣ６「**国を守るために、寺とかも米を借りている**」への反論であり、「国を守る」家康に対して「その辺の人たちの生死」に触れて語っていることが考えられる。さらに、**第７時**の**資料２３**生徒Ｂの感想「家康はまわりの国と戦うのに米が必要なのは分かるけど、」「家康側の意見を聞いたけど、」と自分とは反対の立場の考えを考慮しつつ、でも「自分たちの権利を侵害されたから戦った」と、反対の立場を受け入れつつ、自分の考えにこだわっているのは、意見をかかわらせたからこそだと考える。

手立て⑥合意形成を助ける形態の工夫

→**第７時資料２２**の**生徒Ａ**「**家康側はやっぱり**」と自分の意見に自信を深めているのは、「深める協同」で再度考え直した結果だと考えられる。また、**資料２２**の**生徒Ｂ**「生きていこうとしていたんだよ!!」と意固地になったのも、「深める協同」で話し合ったからだと考えられる。

（４）仮説Ⅳ　歴史的事象をふりかえり、歴史解釈に迫ることが、自分なりの見方で歴史をとらえ、身のまわりの社会的事象に関心をもつことにつながったか？

手立て⑦歴史事象を意味付ける場の設定

→**第８時**の**資料２５**生徒Ａ、Ｂの感想「三河一向一揆とは自分のほうが強いことを証明するためのもの」や「三河一向一揆とは意地のはり合いだった」、さらに**資料２６**から「天下統一や不輸不入権の権利を守るといった未来をかけた戦い」や「家康も家臣も平和を願っていた戦い」と単元の終わりに追究過程全体をふりかえったことがこうした解釈を生んだと考えられる。**資料２６**「家康や家臣の気持ちを知ったけど、傷つけあったので意味がなかったたたかい」と意味がなかったとしたのは、傷つけあったからだとして解釈しており、史実とは異なる解決方法を模索していると考えられる。

以上**（１）～（４）**から、手立てが有効に働いたと言える。

４　おわりに

学期末、社会科ノートに社会の授業を一年間ふりかえって感想を書かせた。その中で「この単元が一番楽しかった」や「学区に一揆があって、みんなで話し合ったり、考えたりして課題を一つ一つ解いていくのが面白かった」とあった。生徒にとって本実践を学習したことは、空間的に存在した身近な事象を仲間とともに学ぶことで、心情的に身近に感じることのできた実践となった。歴史の中に入り、当時の人々の思いに共感した本実践のような経験が、「歴史って何の役に立つんですか？」という問題意識を抱え、歴史を他人事に見る生徒たちの心にいつまでも残ることを願っている。